

第72回春季
東北高校野球

第72回春季東北地区高校野球大会は第3日の13日、山形県中山町のヤマ
リョースタジアム山形（山形県野球場）で準決勝2試合を行った。本県第
2代表の八戸学院光星が15安打を放ち、能代松蔭（秋田県1代表）を12
対6で下し、2年分の決勝進出を決めた。決勝は14日午前10時から、同球
場で仙台育英（宮城県1代表）と戦つた。（佐藤正悟、棟方好華）

7回7点打者一巡の猛攻

▽ボーク 小森（能
【評】1点を追
光星は七回、打者
猛攻。四球とバン
ト、敵失で無死満

米澤の遊撃強襲の2点適時内野安打で逆転に成功。田中颯の適時打や平良の適時三塁打などでさらに5点を奪った。八回には暴投と押田小の中前適時打で2点を加え、追う相手を突き放した。投手陣は計9安打を許しながらも秋元、エース

策と堅守も光った。
1年押田小 3安打
○…八学光星の1年生
で8番を打つ押田小が3

「打てて気持ちがい
試合前に先輩たち
『俺らが打つから気
行け』と言われたの

東京都出身。押田心(3年)とともに兄弟で「八学光星」のレギュラーを張る。173^{センチ}、60^{キログラム}と細

佐藤、平良の継投で逃げ切った。2試合連続無失

安打。大量得点の七はきっちりと送りバ

「回（わ）に（は）気楽（きらく）に打（う）てまし（ま）た」と白（しろ）い歯（は）をのぞかせた。

[illegible]

身ながら、1日の準々決勝では三塁打と二塁打を放ち、長打力もある。「ここまで来たからには勝ちたい。自分は守備で使ってもらっている。守備で貢献したい」と決勝での



米澤逆転打 打線に勢い



7回裏、八学光星無死満塁、米澤の適時打で二塁走者・田中楓（背番号9）も生還し5-4と逆転

ハ光学打線の勢いが止まらぬ。11日の準々決勝に続く。右安打の15安打12得点で、熱戦を逆転で制し、2年ぶりの頂点へ王手をかけた。仲井監督は「大東大会が最終にけては、選手たちが多すぎた。選手たちが気持よくを切りさずに戦え、絡み無空闘争」

7日の練習試合で3ー1で引き分けた相手とのシリーズゲームは、1点を這う七回にドラマが待っていた。田畑心の四球と田中燾のバットヒットに、敵失が重なった。好機で打

がない」と米澤。決勝は前回出場した2年前と同様、仙台青葉と対戦する。「自分たちはチャレンジャー。一人一人が後ろにつなぐ意識を持ち、全員で集中して戦いたい」。悲願の初タイトルまで、あと一勝だ。

（棟方好華）

席が回ってきたのは、仲井監督が勝負欲強くて太鼓判を押す米澤だ。」「こて打ったらヒーローや」。自らに言い聞かせながら打席に立ち、内角の直球を強振。鋭い打球はタイピンググリップを試みた遊撃手のグラブを大きくはじいた。相手守備がもたつく間に2者が生還。ハイタッチして逆転を喜ば合うベンチから、歓声に沸くスタンドに向かう。何でも何でもガッツポーズした。波に乗った打線はこの回、打者一巡の猛攻で計7点を奪った。

新チームが発足して以降「県大会も含めて優勝経験

無死満塁「ここで打ったらヒーロー」

県勢きょうの試合

(左のチームが一塁側)

◇決勝

▷セブリーフスタジオ/

山形

仙全荔枝 1 号 新丰月 (10 0)

仙台育英一八字光星(10・0)

東奧日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです